

居場所を見つける

教諭時代、校外にある相談室に通室している生徒とお家の方とで面談する機会がありました。様々な選択肢の中から自分の意思で学校以外の場所を選んだことを褒（ほ）めると共に、「お家（うち）以外に自分の居場所をみんなで一緒に探しましょうね。その場所は、別に学校でなくてもいいんだよ。」と話したことを覚えています。

五味太郎さんの本にこんなくだりがあります。『この歳になってつくづく、人生というのは自分の居場所を探すことなんだなあと思います。ぼくもずっと探してきたような気がするし、自分の子どもたちを見ている、それ以上にそういう気がするのです。その居場所をパワフルに自分で見つけられる子もいれば、ちょっとパワーが足りなくて見つけられない子もいるはずです。でも、やっぱりあてがいぶちの居場所はダメです。居場所はどんなことをしてでも自分で見出すしかありません。そして子どもたちが自分の居場所を見つけることについて、大人が必要なときにどれだけ手を貸してやれるかが勝負なんだろうと思います。「ぼくはどうも学校に合わないみたいだなあ」と気楽な主体性を持っている子どもは、なんの問題もなく、すたこらさっさと逃げ出して、楽しく自由にやっています。新しい居場所を探しているわけです。そんな子ども、このところ、わりあいよく見かけます。』

学校の先生やお家の方が与えたあてがいぶちの居場所でなく、自分で探し見つけた居場所であれば居心地がいいはずだし、居心地に変化があった場合でも、自分で考えて適応したり、場合によってはその居場所を離れたりできるのではないのでしょうか。居場所をみつける作業は一生続きます。今は居場所を見つけることが上手くいかない人も諦めずに探す作業を続けましょう。きっといつか自分に合った居場所がみつかるはずですよ。

藤川俊彦（3月23日更新）